

# 平成 27 年度事業報告

平成 27 年 3 月 1 日から平成 28 年 2 月 29 日までの事業報告

## 1 会員状況

### 1.1 法人会員及び団体会員

級 種	平成 27 年度末	平成 26 年度末	増 減
1 級	9 社	9 社	±0 社
2 級	5 社	6 社	-1 社
3 級	20 社	20 社	±0 社
4 級	33 社	32 社	+1 社
5 級	69 社	70 社	-1 社
計	136 社	137 社	-1 社

### 1.2 個人会員

種 別	平成 27 年度末	平成 26 年度末	増 減
正会員	1080 名	1137 名	-57 名
(内・名誉会員)	10 名	9 名	+1 名
(内・永年会員)	35 名	40 名	-5 名
学生会員	63 名	83 名	-20 名
アジア海外会員	9 名	0 名	+9 名
アジア海外学生会員	0 名	0 名	0 名
計	1152 名	1220 名	-68 名

### 1.3 名誉会員 (10 名)

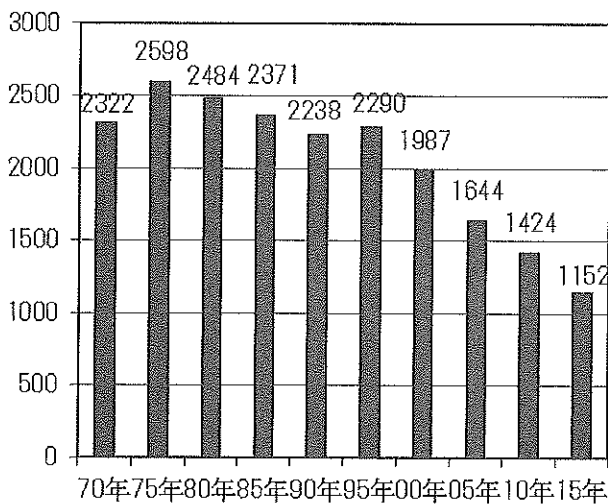
池田 功 伊藤 俊洋 大城 芳樹 荻野 圭三 北原 文雄 島崎 弘幸  
 田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 早野 茂夫

### 1.4 日本油化学会フェロー (10 名)

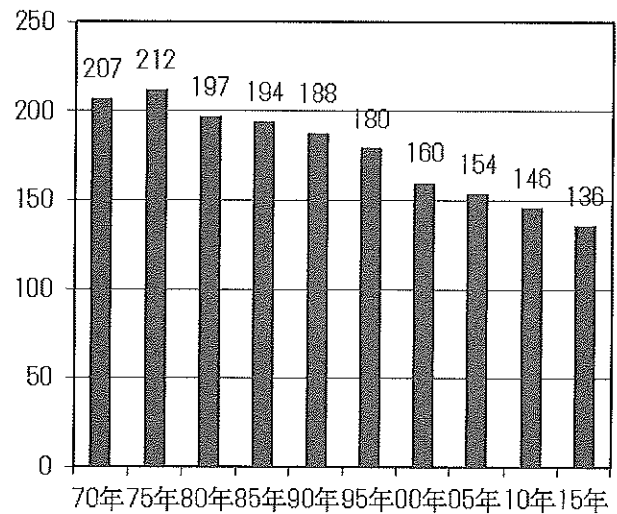
石上 裕 今榮東洋子 岡崎 三代 佐藤 清隆 菅野 道廣 妹尾 学  
 武田 徳司 戸谷洋一郎 師井 義清 Ching T. Hou

### 1.5 会員数の推移 (個人・法人)

個人会員数の推移



法人会員数の推移



[ここを入力]

## 2 会務

### 2.1 総会

第61回定時総会を、平成27年4月27日、油脂工業会館9階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて112名の社員（代議員）の出席を得て議案を審議した。平成26年度事業報告及び決算案が審議され、原案通り承認・可決された。また、27年度役員を選任が行われた。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

- ① 日本油化学会フェローに、東京医科歯科大学名誉教授 岡崎 三代氏が推戴された。
- ② 平成26年度日本油化学会工業技術賞及び進歩賞が次の各氏に贈呈された。
  - ・工業技術賞 東洋紡株式会社 山本 周平氏 他4名
  - ・進歩賞 長崎国際大学大学院薬学研究科 中原 広道氏
- ③ 日本油化学会女性科学者奨励賞が、花王株式会社 山崎 律子氏に贈呈された。

つづいて、講演（演題・講師：「私は何処から来て、何処へ行きたいのか -水と油と生命、そして心-」・伊藤俊洋氏〔(一財)北里環境科学センター理事長、本会元会長〕）が行われ総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、ラグナヴェールTOKYOで開催され、約40名が出席した。

### 2.2 理事会

定例理事会は5回開催し、平成26年度決算案の承認、平成27年度会長、副会長及び常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任（委嘱）、日本油化学会名誉会員、フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞及び日本油化学会学会賞等の選考、平成29年度（第56回）年会開催地の決定及び実行委員長の選任等、重要案件について審議し決議した〔出席理事 延59名、出席監事 延14名〕。別に、定款第34条に基づく決議（書面による審議と同意）を1回実施し、内閣府に定期的に提出する書類（平成28年度事業計画書および収支予算書等）等を承認した。

### 2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会を7回、支部長連絡会を1回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	5回	役員等候補者推薦委員会	2回
財務委員会	1回	企画・部会統括委員会	4回
学会賞等選考委員会	2回	企画・部会統括委員会全体会議	2回
功績賞等推薦委員会	2回	規格試験法委員会(含小委員会)	14回
学術専門委員会	1回	編集委員会(レオアイエス)	5回
レオアイエスフェア実行委員会	2回	編集委員会(JOS)(部門編集長会議含む)	2回
界面活性剤評価・試験法改定委	2回		

運営委員会は、当会の将来像を検討するための将来構想委員会および年会の改革のためのワーキンググループを立ち上げた。総務委員会は、平成28年1月から実施されるマイナンバー対応のため内部整備を行い、さらにホームページのリニューアルのため種々の調査を開始した。財務委員会は、平成26年度決算案を理事会に上程した。また平成28年度予算書を理事会に上程するとともに、平成27年度決算書(案)を作成した。企画・部会統括委員会は、フレッシュマンセミナー、アドバンスセミナー等を企画・開催した。また、懸案事項であったオレオライフサイエンス部会と油脂産業技術部会の統合問題について、2部会の廃止・1部会の新設案を運営委員会・理事会に上程し、承認を得た。平成28年度はライフサイエンス・産業技術部会として活動することとなる。規格試験法委員会は、『基準油脂分析試験法(2013年版)』の必要な修正をおこない増刷した。同時に英文版基準油脂分析試験法CD版の増補・改定版を刊行した。また、各委員会は、「JOS」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行(Web上公開も含む)、「第2回オレオサイエンスフェア」の開催等を行った。

### 3 事業報告

#### 3.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

##### 3.1.1 研究成果の公開

###### 3.1.1.1 第54回日本油化学会年会

日本油化学会東海支部の協力のもとに，田村廣人実行委員長を中心に実行委員会を組織し，準備及び運営を行い，3日間の会期で開催した。一般講演，受賞講演等，講演の合計が221件，参加者は480名と盛況であった。今回は，年会活性化を目的とした日本油化学会の援助により各専門部会によるシンポジウム・ランチョンシンポジウムを3日に分けて開催した。特別講演は，台湾科学技術大学 今榮東洋子氏，教育講演は，花王（株）桂木能久氏，太陽化学（株）南部宏暢氏により行われた。実行委員会は，第12回ヤングフェロー賞に田中理恵子，雑賀あずさ，吉永和明の3氏を選考，油脂工業会館学生奨励賞に10氏，ポスター賞に8氏を選考し，表彰した。

会期：平成27年9月8日（火）～10日（木）

会場：名城大学天白キャンパス

内容：①参加者総数 480名

###### ②講演件数

・受賞講演	2件
・特別講演	1件
・教育講演	2件
・部会シンポジウム・ランチョンシンポジウム	6件（講演数28題）
・一般講演（口頭発表）	119件
・一般講演（ポスター発表）	58件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	11件

###### ③懇親会

日時：平成27年9月9日（水）18時～20時

会場：サーウィンストーンホテル八事

参加者：203名

###### 3.1.1.2 日本油化学会会誌（論文誌・会員誌）の発行

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第64巻 第1号～12号 総ページ数 1,350ページ

論文誌として，冊子版と電子版を発行しており，第64巻は原著論文140件を掲載した。また，ページ外で，投稿規定，入会案内等を掲載した。なお，Thomson Reuters社より，Impact Factor (IFと略)が公開され，2014年は0.968，5年IFは1.108であった。なお，第63巻掲載論文から開始した，J-STAGEでの早期公開を継続（希望者のみ）。

掲載内容	報文	125件
	ノート・速報	7件
	総説	8件

(2) 「オレオサイエンス」誌 第15巻 第1号～12号 総ページ数 596ページ

特集12件及び特別寄稿1件を企画したほか，引続き「若手研究者紹介」や「油脂・界面 基礎講座」にて，ホットでわかりやすい情報を15件掲載した。また，巻頭言，表彰，会務，主催報告，学会情報，研究室紹介，寄稿など，会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。さらに，総説中の図をわかりやすくするため，巻頭カラーとして6ページ編集した。ページ外では，会告，目次等を，312ページ編集した。第13巻の総説類のJ-STAGE公開も実施した。

掲載内容	特集総説・受賞総説	34 件	(特集トピックス 1 件を含む)
	油脂・界面 基礎講座	11 件	
	若手研究者紹介	4 件	
	特別寄稿	1 件	
	国際油脂情報	172 件	
	その他 (巻頭言, 表彰, 会務, 解説, 主催報告, 学会情報, 研究室紹介, 寄稿など)		

### 3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー (油脂), フレッシュマンセミナー (界面), アドバンスセミナー (油脂), アドバンスセミナー (界面) の 4 件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには 2009 年 3 月に改訂・刊行した日本油化学会編集の教本「油脂・脂質の基礎と応用 (改訂第 2 版)」および「界面と界面活性剤 (改訂第 2 版)」を使用した。参加者数は延べ 230 名であった。

若手の会委員会は、8 月にサマースクールとして、「油化学・界面科学の研究現場で役立つ最新トピックス」をテーマとした講演会を開催し、産学官の若手研究者の交流を深めた。

### 3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成 26 年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。平成 27 年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、油脂工業会館学生奨励賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞等授与者を選考した。また本会の発展や油化学分野の科学・技術の発展に功労のあった会員として本会名誉会員、フェローへの推薦者および功績賞、学会賞等の選考も実施した。第 62 回定時総会の席上等で表彰する。

### 3.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業 (公 2)

油脂及び油脂製品の研究や品質管理等における油脂の品質を評価するための基準となる分析試験法として刊行した『基準油脂分析試験法 2013 年版』について、必要な部分の修正を行って増刷し、同時に英文版基準油脂分析試験法 (2013 年版) の増補 CD 刊行を行うとともに、次回の増補・改訂のために、引き続き試験法の見直し作業を推進した。また、学生や研究者、工場技術者向けの界面活性剤の基準書としての『界面活性剤評価・試験法』の改訂作業を行い、平成 28 年度に発刊の予定。さらに、品質管理や研究開発を担う技術系職員及び学生の一般知識の向上と評価・試験法技能の向上を目的として、11 月に第 13 回界面活性剤評価・試験法セミナー及び第 15 回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法及び基準書の普及を図った。セミナー参加者は延べ 68 名であった。

### 3.3 地域における学術の振興と普及を行う事業 (公 3)

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会 3 回
- ・東海支部 常任幹事会 3 回, 支部合同幹事会 1 回, 支部将来計画委員会 1 回
- ・関西支部 常任幹事会 1 回, 常任幹事会・幹事会合同会議 3 回

#### [支部の行事開催]

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延 11 回開催し、参加者数は延 551 名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延 45 名であった。

・関東支部	開催回数	3 回	参加者数	194 名
・東海支部	開催回数	3 回	参加者数	112 名
・関西支部	開催回数	5 回	参加者数	245 名

このうち、(一財)油脂工業会館共催の地区講演会は、7月に福井市・出雲市(関西支部)、10月に銚子市(関東支部)、11月に名古屋市(東海支部)の4ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い、地域における学術振興・普及に努めた。また、第2回オレオサイエンフェアを慶應義塾大学理工学部と共催で、8月に慶應義塾大学日吉キャンパスにて、小・中学生を対象にした実験教室として開催し、参加者数は443名であった。

#### 3.4 学術専門分野の活性化事業(公4)

学術専門分野の活性化については、前年同様、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会および食品油脂機能構造部会が活動を展開し、それぞれの専門分野を深耕した。講演会、セミナー等の行事は、延べ23回開催し、参加者は延べ1,075名を数えた。

オレオマテリアル部会は、9月年会で部会シンポジウムを開催した。また関東地区(テーマ名:「どうなってるの?環境ストレス防御マテリアルの実態」)で講演会を開催した。界面科学部会は、9月年会で「化粧品、医薬品、食品分野における界面科学の役割」をテーマに部会シンポジウムを開催した。また、「化粧品、医薬品、食品製剤の最前線」をテーマとした第62回界面科学部会秋季セミナーを開催した。その他、東海、九州の各地区セミナー・講演会を開催した。洗浄・洗剤部会は、9月の年会でランチョンセミナーを開催した。また、第47回洗浄に関するシンポジウムを開催した。シンポジウムでは一般講演、オリジナルレポートの発表の他、「洗濯・洗浄に関する表面改質技術」をテーマに特集した。オレオライフサイエンス部会と油脂産業技術部会は共同で、9月年会で「脂質分析におけるキラルHPLC技術の発展」をテーマにシンポジウムを開催した。また部会セミナー「食品産業における卵の利用」、部会ワークショップを開催した。オレオナノサイエンス部会は、9月年会にて「ナノドラッグデリバリー技術の開発と展望」と題した部会シンポジウム、ランチョンシンポジウムを開催した。マスターズクラブは、関東セミナー、東海講演会、関西見学会・講演会を開催した。

各支部及び各専門部会は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。